陶韻クラブ

第６号

５年ぶり ふれあいの旅

今年度の「ふれあいの旅」は、１１月１７日(日)に行われました。急な計画でしたが参加者は１８名＋１名。０８時の予定より少し早めに出発できました。出発時には少し陽が差していましたが、津軽へ向かうにつれて段々と空模様が怪しくなってきましたが、１０時に予定どおり黒石の津軽こけし館到着。中坂さんの娘さんが足湯に入って喜んでいました。烏城焼きの登り窯を眺めつつ、道の駅いなかだてへ向かいました。

途中から雨が強くなり、楽しみにしていた道の駅でのフリーマーケットは開催されておらず、ちょっと残念です。皆さん、お土産を沢山買い、弘前へと向かいました。

昼食は、弘前市土手町の「菊富士」で「むつ湾定食」でした。けの汁もついてとても美味しくいただきました。そして、いよいよ研修旅行の目的である弘前市博物館にて「魯山人の宇宙―魂を刳（えぐ）る美が欲しい―」を見学です。

隣の文化会館で行われていたイベントのためなのでしょうか、バスが駐車場に入れず雨の中を少し歩いて博物館へ向かいました。

最初に学芸員の方から「魯山人が陶芸や書、絵画など幅広い分野で斬新で個性的な作品を生みだしていて、特に陶芸では料理と器の総合的な演出を目指したこと」などの説明を受け、展示品の中でも看板となる作品の「九谷風鉢」は「家一軒ぐらいの価値がある」との説明に会員一同感心していました。

鉢や皿をはじめ、墨書や水彩画、魯山人の愛用のテーブルや、茶室など展示品を見学しました。

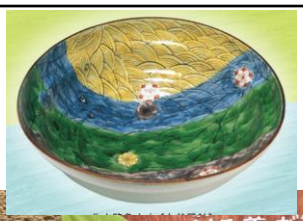
なかには「私が作った作品とそっくり」など感激する会員の方もいました。

段々雨が強くなる中、最後の立ち寄り先である「なみおかアップルヒル」で買い物をして帰路に着きました。途中、青森高速道が事故か何かで渋滞していたため、中央ICから降りて、みちのく道路へ向かったため、すこし予定より遅くなり、三沢へ帰ってきたのは１８時でした

帰りのバスの中では、一日の疲れが出たのか、お休みの方が多数いました。

２０１９年７月に烏城焼の研修を行って以来５年ぶりの「ふれあいの旅」でしたが、やはり陶芸の研修を目的とした旅行は楽しいですね。

来年の市民文化祭では、今回の体験から影響されてすばらしい作品が出されることを期待したいと思います。



木村さん　お元気で・・

３回生の木村ヒデさんが、この度　娘さんの住む宮城県へ引っ越すことになりました。残念ですがやむを得ません。木村さんは、会員として約４０年活動してこられました。その間、皆さんもご存知のとおり醤油差しや香炉など蓋物の小物の制作を得意とし、クラブ員の手本となる作品を数多く作られてきました。今年度の文化祭にも作品を出展していただきました。

その木村さんから１１月８日に陶芸の蔵書を多数寄贈していただきました。今後の作品製作の参考にされてはいかがでしょうか。

保管場所は棚の下段です。（写真の場所）

貸し出しは自由とします。持ち帰って自宅でゆっくりと読んだ後は確実に返却をしてください。

土錬機　初投入

約４０年ぶりに更新された土練機を初めて使用しました。

１１月８日(金)に全員注目の中、代表が粘土を初投入しました。皆さん、期待に胸ふくらませじっと土錬機の出口に目を凝らして待っていましたが、いくら待っても粘土が出てきません。

調べてみるとスクリュー羽の軸が左右逆に取り付けられていて粘土は奥へ奥へと送られている事が解りました。検討の結果、分解して組み直すことにし取説を見ながら分解、軸を左右入れ替えて組み立て直しました。結果は無事に土練機として使用できるようになりました。まずは一安心です。今後は全員が使えるようしていきましょう

白化粧土について

（平成１５年９月号より）

最近、白化粧土が使われるようになりましたので、少し書いてみます。昔、白い土が手に入りにくかったころ、手近にある鉄分の多い赤土で形を作り、その表面を白い粘土でおおって白く見せることを考えつきました。これを化粧掛けと言います。陶韻クラブで使っている白化粧は市販されていない自家製です。普通に作った作品が、「少し乾いた状態(削りの後一日以内)の時に釉薬を掛けると同じような方法で掛けます。あまり乾き過ぎますと作品が割れることもありますから気をつけて下さい。その後、完全に乾燥させてから素焼きをします」。

次に釉薬を掛けて本焼きをするわけですが、釉薬の選び方が大切です。意味のない色を使うと、せっかくの白化粧が無駄になります。

「釉薬は、透明釉を使うことが最も標準なのです。わら灰もよいと思いますが、乳白釉やおりべなどは全く意味がありません。」

次に白化粧泥の掛け方ですが、本焼き前に釉薬を掛ける訳ですから、高台ギリギリまで白化粧泥を掛けたり高台内に掛けたりしないで下さい。白化粧泥の上に釉薬を掛けないと、使っているうちにそこに水垢がついて取れなくなります。とても汚いです。

釉薬の掛け方は、

①浸し掛けが最も簡単できれいに仕上がります。皆さんがいつもやっている釉薬掛けと同じ方法だからです。ただし、口の狭いつぼなどの中には施釉しないで下さい。

②流し掛け

つぼなどの大物に、肩の部分から化粧泥を細長く縞状に流すやり方です。

スプーンやスポイトなどを使い、作品の肩の部分から素早く流します。

口辺はあらかじめ浸し掛けをしておきます。

③刷毛塗り

ロクロの中心に作品を置き、軽く回転させます。粗目の刷毛や太めの筆を使うことが多いようですが、できれば稲の継先を束ねた簡単なワラの刷毛に、化粧泥をたっぷりと含ませ、一気に塗ると刷毛の通った後のかすれなど、おもしろい効果が現れます。また、作品をロクロの上で回しながら、化粧泥を含ませた刷毛を、波打たせるように上下に軽く動かして塗ります。胴毛の大小、毛の固さ、刷毛を放打たせる手の上下運動の大きさなどによって、それぞれ異なった模様ができます。

その他、たたき掛け・イッチン・かき落とし・とびかんななどがあります。

赤や黒や青などの化粧泥も作ばできますが、今のところ、あまりお勧めできませんね。

忘年会の予定

みなさんお愉しみの忘年会は１２月２１日(土)に行います。時間は１８：００から場所は「魚らく」です。

なるべく足腰に負担かからないように椅子のある場所を探した結果です。

会費は３０００円程度を予定します。

１２月１３日(金)までに出欠をお知らせください。